

24-5 小田屋敷跡 (八王子市松木1,027他)

地図11

別名 多摩ニュータウンNo.287・288・289 遺跡

沿革・伝承 『風土記稿』や『武蔵名勝図会』によると、当地は北条氏照の家臣小田野(小田)氏が居住していた場所であるとされ、特に『武蔵名勝図会』では「小田屋敷跡」と紹介されている。  
遺構・考察 多摩ニュータウンNo.287・288・289遺跡は、「小田屋敷」の伝承地を含む一連の遺跡で、総面積は32,400㎡に及ぶ。遺跡は多摩丘陵内を東流する大栗川と大田川に挟まれた沖積地と接する丘陵東端の緩斜面地に位置する。丘陵は小河川により南北に隔てられており、本遺跡はその南側を占地し、北側の平坦な台地には伝大石信濃守屋敷(多摩ニュータウンNo.107遺跡)が所在す

る。  
発掘調査は昭和62・63年度、平成元年・2年度に実施され、堀や庭園を伴う建物群とともに、中世の遺物が出土した。

遺物には陶磁器・土器類の他、石製品(砥石・硯・石臼・板碑)などがあり、特に陶磁器には国産の瀬戸・美濃窯や常滑窯の製品の他、青磁・白磁・青花など舶載製品が含まれている。

陶磁器・土器を中心とする遺物の年代から、検出された遺構群の年代については、概ね14世紀から16世紀の間に求めることが可能であり、したがって検出された遺構群と伝承にある「小田屋敷」とは、極めて関連性が高いと考えられよう。



第25図 小田屋敷跡遺構図 (S=1/1780)

24-6 小田野城跡 (八王子市西寺方町)

地図15

別名 小田野館

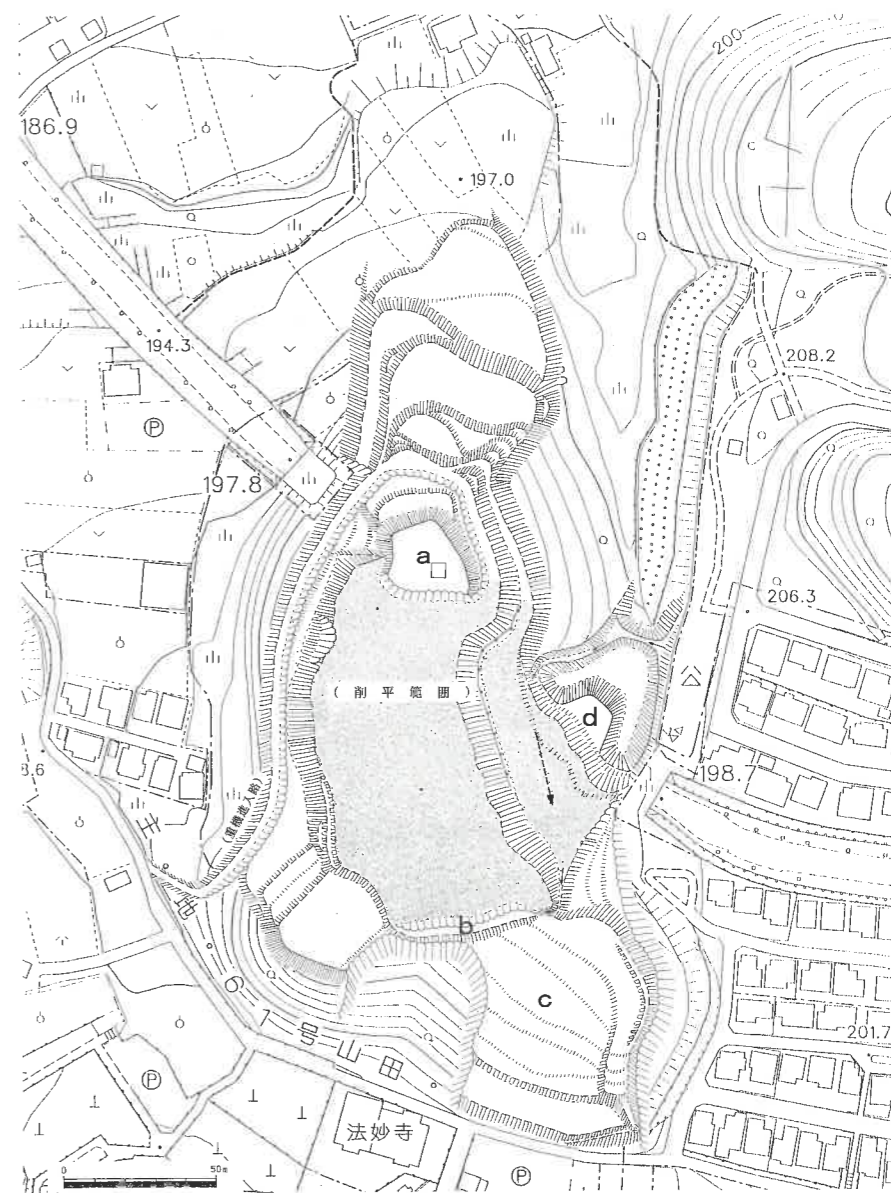
沿革・伝承 『風土記稿』多磨郡之十六・由井領寺方村の条には特に記載がないが、『武蔵図会』は北条氏照の臣・小田野源太左衛門の屋敷跡が山上にあるとする。推定永祿4年(1561)3月12日付北条氏康判物写は「小田野との」へ宛てた感状で(『戦・北』680号)、「屋敷へ敵取懸候処、堅固遂防戦、敵十五人打取(ママ)駿、津久井迄指越由、忠節無比類候」の文言が見える。これは、上杉謙信(長尾景虎)が小田原に侵攻した時期と重なるものの、この小田野氏の「屋敷」が当城を指しているかどうかは、不明である。調査報告書(註)および『多摩古城』は、八王子城の広域防衛体制の中で構築された、一種の出城との見解を示している。

遺構・考察 八王子城の北東2.3kmに位置し、西寺方町南部から式分方町方面にのびる丘陵の先端部に占地する。丘陵の上面は1970年代に土取によって大きく失われてしまったが、その後の都道建設計画に際しては発掘調査が実施され、建設計画も変更されて遺構残存部分については保存措置がとられている。現在城跡は、公園や山林・畠となっている。

現状で明確に視認できる主な遺構は、北側の腰郭状の段築と東側の虎口状遺構dである。南側(c)については土取時の改変が及んでいるように見え、判然としない。ただし、八王子城方面へと接続する丘陵に対す

る明確な遮断施設は認めることができず、単独の完結した城郭としてはやや不自然である。主郭に相当する範囲が失われている現状で、上述した小田野氏「屋敷」に比定することの可否を判断するのはむずかしいが、現在見る遺構が八王子城防衛体制の中で構築された可能性についても考慮する必要がある。

(註)八王子市深沢遺跡・小田野城跡調査会 1981『深沢遺跡・小田野城跡』



第26図 小田野城跡縄張図 (S=1/2500)